

## 経営健全化方針に基づく取組状況（令和4年度）

### ○法人名

（一社）宮崎県酪農公社

### ○経営健全化方針を策定した理由

・債務超過額が平成29年度末時点で189,627千円発生しているため、平成30年度に経営健全化方針を策定したものの。

### ○財政的リスクの状況

	平成29年度決算 (※1)	・・・	令和4年度決算 (※2)
債務超過額（千円）	189,627		318,740

※1：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※2：該当する経営健全化方針の策定要件に関して、直近の決算額を記載

### ○主な取組状況

#### 【公社自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・飼料や資材、燃料等といった生産原価の高止まりにより、令和4年度は29,739千円の損失を計上することとなった。
- ・主要部門である乳用牛育成預託部門は、厳しい酪農情勢を背景として、令和4年度の預託牛（平均在場頭数）は661頭と前年を下回った。  
これに対し、公社は、県内酪農家へパンフレットの配布や預託牛の入牧現地説明会などを通じて預託事業の周知を図り、酪農家からの入牧頭数の増加に取り組んだ。
- ・乳用牛部門では、期間の平均搾乳頭数及び平均出荷日量が前年よりも減少したことものの、飼養管理の徹底に取り組んだことで、令和4年度の1頭あたり乳量は8,731kgと前年を上回り、自家産更新に取り組んだことで乳質の改善にも貢献できた。

#### 【地方公共団体による財政的なりリスクへの対処のための対応】

- ・令和4年3月に公社と県・都城市を含む関係機関を構成員とした「宮崎県酪農公社運営改善チーム」が策定した「第四次経営改善計画」の確実な実行に向け、公社全職員と県・都城市を含む関係機関が参加する経営実績検討会（毎月）や、公社と関係機関を参集した経営改善チーム会議（四半期毎）を開催し、公社の経営状況や部門毎の業務の状況をフォローするとともに、計画の進捗状況や財務状況の確認を行い、経営改善を図った。

### ○宮崎県酪農公社の財務状況

(貸借対照表から)

千円

	平成29年度決算 (※3)	・・・	令和4年度決算 (※5)
資産総額	285,717	・・・	331,205
流動資産	125,892	・・・	156,153
固定資産	159,825	・・・	175,052
(うち棚卸資産)	66,529	・・・	61,959
負債総額	475,344	・・・	489,365
(うち当該地方公共団体からの借入金)	0	・・・	0
宮崎県	0	・・・	0
都城市	0	・・・	0
総資産額	-189,627	・・・	-158,160
出資金	160,580	・・・	160,580
繰越利益剰余金	-350,207	・・・	-318,740

(損益計算書から)

千円

	平成29年度決算 (※4)	・・・	令和4年度決算 (※6)
事業収益	397,510	・・・	459,504
事業原価	309,364	・・・	395,062
販売費及び一般管理費	78,051	・・・	88,681
事業利益	10,095	・・・	-24,239
事業外損益	-5,146	・・・	-3,453
経常利益	4,949	・・・	-27,692
特別損益	890	・・・	-1,976
当期純損益(税引前)	5,839	・・・	-29,668
法人税等	71	・・・	71
当期純損益	5,768	・・・	-29,739

※3,4：経営健全化方針の策定が必要となった決算年度の数値を記載

※5,6：直近の決算額を、順次記載